

白鷺教育会

姫路支部だより

令和3年12月11日発行・発行人 芦田 守

感謝

白鷺教育会姫路支部 田中 智也



生まれて65年、多くの人たちに支えられ、応援してもらいながら生きてきた。いつも感謝の気持ちを忘れることなく毎日を過ごしている。

先日、あるテレビ番組で、信号機のない横断歩道を歩行者が横断するときに一時停止する自動車の割合を調査報告していた。多い都道府県で3割、少ない所では1割とのこと。ところが、ある小学校近くの通学路にある横断歩道では、7割以上の車が一時停止していると紹介され、児童たちが、横断後、運転手にお辞儀をして大きな声でお礼を言っている映像が流れた。インタビューを受けた児童が「急いでいるのに私たちのためにわざわざ止まつていただいたので、感謝の気持ちを表しました」と答えた。レポーターからは、「以前は他の横断歩道と同じように止まる自動車は少なかったが、3年ほど前から子どもたちが自主的に始めたこの行動のおかげで、今では7割以上の車が止まるようになった」と説明があった。私は、小学生の素直な気持ちは微笑ましいと思いながらも、この放送にものすごく違和感を覚えた。「横断しようとする歩行者等があるときは、一時停止し、かつ、その通行を妨げないようにしなければならない」と法律で規定され、罰則もある。この一時停止は、赤信号の一時停止と同じである。運転免許証を持つ者なら誰でも知っている規則である。法律の規定に関係なく交通弱者である歩行者を優先するのは運転者として当然であり、小学生の行動と一時停止の割合が増えることを結びつけるのは違うような気がしてならない。雨の日も風の日も交通ルールを守り、横断歩道を渡って登下校している小学生を一時停止して感謝しながら見送るのは、運転者ではないだろうか。強い立場の者が感謝されるのが当然で、さらには感謝の気持ちを示さなければ、弱い立場の者は守られない。そんな世の中にはしたくない。

私の通勤経路(12km)には、信号機のない横断歩道が22か所ある。明日も、対向車線の凶器を操る止まらない違反者に怒りと恐怖を感じながら横断する人を安全に見送りたい。



令和3年度 現職教員研修講座報告

新しい試み、小中の学びの繋がりを意識した研修会の実施

昨年度は新型コロナの拡大ですべての現職研修講座の開催を中止しましたが、本年度は例年通り「学級経営講座」「授業改善講座」「学校運営学習会」「教職特別講座」の四つの講座を計画しました。感染者がなかなか減少せず開催を躊躇ましたが、安全・安心に心がけ何とか実施することができました。今回の「授業改善講座」では、これまで8年間実施してきた国語教育を、昨年度から全面実施された外国語教育に代えて実施しました。小中一貫・連携教育が進められていることもあり、小学校だけでなく中学校の先生方にもご参加いただきました。岡本真砂夫先生の講義に基づき、グループごとに小中学校における学習内容や指導方法の実情など情報交換し合い、外国語教育と英語教育との連携や系統性について関心や理解を深めることができました。

今後も、白鷺教育会では、退職者と現職者とがお互いに手を携え、姫路市の教育発展に向けて現職の先生方のニーズに合わせ、教育力向上に役立つ研修講座を計画実施していきます。会員の皆様方のご支援とご協力のほどよろしくお願ひいたします。

(研修部 谷口 和良)

教職特別講座(小・中臨時講師)

教員採用試験対策・教師力向上

講師 川渕 博祥 先生（元校長）

於：城の西公民館

4月 24日（土）（月1回程度実施）

講座を通して、私が一番印象に残っていることは、「楽しい」と「わかる」は常に2つセットだということです。それは、活動させるだけになったり、「わかった」や「できた」という成功体験につながる機会が少なかつたりすると、「楽しい」だけしか実感できなくなってしまう。一方で、教師が一方的に進めたり、教科書やノートだけを使い、教え込むだけになってしまったりすると「わかる」だけしか実感できなくなってしまうということです。日々、授業をする中で意識しているようで、まだまだ自分自身に足りていない部分だなど改めて実感することができました。

また、面接では、面接官と会話を楽しむことが必要だということや実際にはいない子どもたちのことをどれだけ想像し、具体的に話すことができるかということが大切だということを改めて知ることができました。今回の講座では、試験対策だけでなく、子どもと関わる中で大切にしていくべきことなど、多くのことを学ぶことができました。コロナ禍で、教育活動においても様々な制限がかかり、いつも通りとはいえないことも多いですが、「楽しい」と「わかる」を実感することのできる授業展開を目指していきたいと思います。そして、6月から始まる教員採用試験に向けても今回の講座で学んだことを生かしてしっかりと準備していきたいと思います。

（姫路市立曾左小学校 講師 杉山 由真）

学級経営講座(小・中学校)

子ども理解に基づく学級経営のあり方

講師 姫路市立安室小学校長 梶原 潤一郎 先生

於：城の西公民館

7月 30日（金）

「学級経営」は、教員生活の中で何度も耳にし口にしてきた言葉ですが、これをしておけば大丈夫という特効薬に出合ったことはありません。毎年、悩みの内容は違っても悩み続けています。だからこそ、藁をもつかむつもりでこの講座を受講させていただきました。講師の梶原先生には前任校でご一緒したご縁を理由にして、ことあるたびに話を聞いていただき、無理なお願いをしてきました。

今回の講座では、様々な資料を用いて、学級経営について多面的な角度から教えていただきました。その中でも、学級において担任は「怒る人」ではなく（もちろん指導すべき時に叱ることはしなければいけませんが）、「居場所をつくる人」であるべきで、学校を一つのチームとして子どもたちに関わる必要があるというお話を聞きし、改めて梶原先生のお人柄に触れたような気がしました。

私が梶原先生を頼り甘えてしまうのは、この考え方方が根底におありだからだと思います。誰もが受け入れられていると思うからこそ、話をしようと感じるのだと思います。学級においても子どもが受け入れられないと感じ、話してみようと思える環境づくりをしていくことが、学級経営なのだと改めて身をもって知ることができました。ありがとうございました。（姫路市立別所小学校 教諭 伊勢田 佳子）

学校運営講座(小・中学校)

学校運営の課題と法規（2回講座）

講師 田中 智也 先生（元校長）

石原 義行 先生（元校長）

於：イーグレ姫路

8月 6日（金）

8月 20日（金）



新型コロナウイルスの感染拡大により制限の多い中で、白鷺教育会の皆様が研修講座を開いてくださることを大変ありがとうございます。この度、参加させていただいた「学校運営の課題と法規」の田中智也先生の講座では、数々の法規が、日々の指導や学習活動、一つ一つの業務に深く関わっており、我々

の身边にあり重要であること、教育公務員として行う全ての行動は法規に裏付けされていることを再認識いたしました。また、法規とは「赤信号は渡ってはいけない」(禁止行為)ということだけでなく「青信号は渡ってよい」ということを知らないと前に進めないというお言葉が印象的でした。具体的な法規の検索の仕方や読み取り方など丁寧にご指導いただき、実践的な学びになりました。これを本校の職員に伝え、法規に関心を持つことで、日々の行動の意味を理解してコンプライアンスに努めるとともに、自らを守るツールの一つにしてほしいと思っております。激変し先行きが不透明な社会であるからこそ、「法令を正しく理解し適切に執行できる」教職員集団であるようこれからも学び続けていきたいと存じます。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

(姫路市立山田小学校 教頭 神戸 智子)

講師の石原義行先生は、現在、関西福祉大学で教職支援をされており、前半は大学で教えられている内容も踏まえながら、新学習指導要領で子ども達に育成が求められている資質・能力や授業づくり等について大変わかりやすくご教示いただきました。最近の自分自身を振り返ってみると、多忙を理由に視野が狭くなっていましたが、大きな視点でこれからの教育の方向性について捉えることの大切さに改めて気づくことができました。

後半は、石原先生が校長をされていた際に、生徒指導面で大変な学校を立て直されたことや、制服を学区初のブレザースタイルに変えられたこと等について、体験を踏まえながら臨場感豊かにお話しいただきました。また、質疑応答では、司会の横内先生が受講者からの問い合わせに対して新たな問い合わせを投げかけられ、自らの考えを広げたり深めたりするという対話的な学びをすることができました。

今回の研修を受講することで、今後とも研鑽を重ね、微力ながら姫路の教育のために尽力したいという決意を新たにしました。白鷺教育会の皆様には貴重な研修機会を提供いただき、本当にありがとうございました。

(姫路市立飾磨東中学校 教頭 古林 達也)

授業改善講座(小学校)

小学校外国語教育入門講座

一小学校外国語における4技能の指導ー

講師 姫路市立八幡小学校 主幹教諭
兵庫教育大学大学院非常勤講師
岡本 真砂夫 先生



岡本先生の講演は何度か聞いたことがあったが、先生のすごいところは毎回実践を踏まえた新しい話をされていることである。

今回は状況・場面が変わる中で、How are you?のやり取りから始まった。同じ言葉のやりとりだが、状況が変わると伝え方や気持ちが変わるので面白い。飽きずに取り組むことができた。続いて新学習指導要領実施前後の英語教育の流れを述べられ、小学校で実践しているアルファベットの導入を体験した。ただアルファベットを練習するだけでなく、身の回りにある看板やロゴから導入が始まり、様々な「気づき」があったので、大人も十分に楽しむことができる内容であった。その後は教科書の使い方や評価の仕方、またGIGAスクール構想に対応したタブレットの使用方法、実践、話し合いと続いた。

最後に岡本先生の話で締めくくられたが、「英語を学ぶことで、日本のことがよりよく分かる」という言葉が非常に印象に残っている。英語を勉強することが他国の文化理解に繋がり、また私たち自身のことも理解できるのである。

岡本先生のさらなる活躍をご期待申し上げる。

(姫路市立四郷学院後期課程 教諭 秋山 容洋)

「退職会員交流会」についてのアンケート結果

(令和3年8月実施)

コロナ禍で中止している「退職会員交流会」についてのアンケートにご協力いただきありがとうございました。345名の退職会員様に発送したところ、139名(40%)の方から返信をいただきました。回答の人数と割合、及びご意見の中から抜粋し紹介します。

(複数回答可のため割合の合計は100%ではありません)

① 「会食」 63名 (45%)

- ・退職するとどうしても人と会う機会が少なくなります。年一回でも皆さんとお会いし談笑できる機会があると楽しいです。是非継続して下さい。
- ・お元気な方は市内巡りも良いと思いますが、私のように80才を越してくると足元も不安定となり長時間の歩行も困難となってきますので、たくさんの方々が参加されるためには会食が良いと思います。
- ・コロナ禍で皆様とお会いすることがなくさみしく思っています。何らかの方法で年に1回くらいはお会いしたいと思います。散策やぶらり旧所巡り等、行きたいのはやまやまですが足がついていきません。しかし、場所によりお付き合い致します。

② 「市内巡り」 37名 (27%)

- ・市内でもまだまだ行っていない所があると思います。ちょっとした場所に行き食事はどうでしょうか?
- ・知っているようで勤務したことのない校区のことは案外知らないように思います。また市域も広がり学ぶべきこともあるかと思います。

③ 「その他」 32名 (23%)

- ・音楽鑑賞・落語・マジックなどとティータイム(歓談)はどうでしょうか。
- ・支部総会では総会後会食を設定しているので、退職会員交流会での会食は無くてもよいのではと。ただ、文書や会報等一方通行なので、せめて年1回の往復はがきによる近況報告での交流などはどうか。
- ・2部制とし、どちらかだけの参加も可とする。第1部選択制(①ゴルフコンペ②ボーリング大会③市内巡り④その他)。第2部会食。

④ 「ご意見」のみ 36名 (26%)

- ・「交流会」の名称だと「出かける」ことが前提となります。年々会員の高齢化が進み外出したくてもできない方が多々あります。元気な人もそうでない人も「つながる喜び」を味わえる方策が見つかるといいですね。

いただいた他の貴重なご意見もふまえ、支部役員会で話し合い、次年度には令和版の「退職会員交流会」を提案したいと考えております。尚、今年度も3月の「退職会員交流会」は中止します。

一日も早く以前のような日常生活が戻り、お会いできる日を心待ちにしております。

(厚生部 魚住 妙子)

物故者のお知らせ

(38号以降)



米澤 昭三(昭22) 令和3年6月・福井 謙介(昭35) 令和3年7月

謹んで哀悼の意を表します

姫路支部会員数 613名 R3.12.1現在)

編集後記

コロナ第5波は全国的にようやく収束しつつあります。しかし、長期にわたるコロナ自粛により、学校では子どもたちの不登校が増えているそうです。教育界は社会の変化とともに常に新たな問題が提起され、先生方はそれらの対応に尽力しておられることと思います。今号は先生方の学びの声とともに退職会員交流会の在り方についてのアンケート結果をお知らせ致します。

(広報部 藤井三津子 坂田紀子 田口純子 富田ゆかり)